
古狼熊狸が行く幻想の学園

暇な人

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

古狼熊狸が行く幻想の学園

【Nコード】

N9952Y

【作者名】

暇な人

【あらすじ】

東方の学園物です、キャラなんてとっくに壊れています。てか壊します

噂の彼女は転入生（前書き）

少し駆け足かも・・・次回から本気だす

噂の彼女は転入生

此処はどこかにある幻想に集う者達が住む都市、その都市に建っている学園にとある少女が転入しようとしていた

「いやいや、たかが転入でそんなナレーション入れられても困るから」

皆さんこんにちは、謎の転入生です
あちよつと行かないで、見捨てないで
後でちゃんと自己紹介するから
、だからバツクしないでー!!!

「ふう、仕切り直して」

ここが新しく転入する学園、幻想学園かあ
前の学校じゃ色々やらかしたからなあ、今回は普通にしてなくちや

『お嬢ー!!!頑張ってください!!!』

訂正、普通には出来ない

一応能力持ちだし殺し屋まがいの家庭だし、まあ考えても仕方ないから学園長さんところ行くわ

少女移動中・・・

「失礼しまーす」

「貴女が転入生の熊狸ね、私は八雲紫よろしく」

「よろしくお願いします」

若いなあ、なんか幻想都市じゃ見た目と年齢が釣り合わないから気を付けろって言われてたけどどうなんだろ

「幾つか質問させてもらうわ、まず1つ目貴女は人間・・・じゃないわよね？」

「そうですね、私の家系はある種のハーフですから」

「二つ目、能力はなにかしら？」

「術式を解読し扱う程度の能力です」

「合格よ・・・ようこそ、幻想学園へ」

試されてた？　もしかして
もしそうだったら何のために、というか不合格だったら帰れって言
われてたの？

ヤバいじゃん、試験も面接もなくて簡単な質問だけって案内に書いてたから選んだけど意外とヤバかったかも・・・

「それじゃ私が担任教師呼ぶから待つてなさい」

「分かりました」

「オープン」

待つ必要なくなか？　と思った、普通に妙な空間開いて誰かを落とした
頭擦ってるし、痛そうだなあ

「紫様、前から言ってますがいい加減スキマを使わずに放送を使っ
て下さい」

「放送委員呼ぶの面倒だから嫌よ、それより転入生を貴女の教室に
案内しなさい」

「分かりました、ほらこつちだ」

「あ、はい」

九尾の狐？のお姉さんに案内されるまま着いていく、それにしても
羨ましい

美人だし胸大きいし、自分だつて後数年すれば・・・

「とりあえず着いたが・・・」

うん、嫌い

特にバカだのニートだのとか言う罵り合いが嫌い、もしかして問題児だらけのクラス？

「少し待ってる、静かにしろ。転入生を返すぞ」

『すみませんっした!!』

「さつき紫様に強制的に呼ばれて私はイライラしてるんだ、それじゃ入ってこーい」

「はい、始めまして古狼熊狸です」

うん、見渡す限り女の子ばかり

女子高だから当たり前だけど、でなんか巫女服の子が私を見つめてるんだけどなに？

「古狼の席は・・・腋巫女の隣だ」

確実に嫌な予感しかしない、なんか分からないけどそんな気がする

「よろしく」

「よろしく、であんた何者か後で教えなさい」

ほらやっぱり！　なんで見つめただけで普通じゃないってわかん

！！

はあ、こりゃ波乱万丈の学園生活になりそうだわ

噂の彼女は転入生（後書き）

妙なのが幻想入りとは関係ありません、ただモチーフに使っただけです

後幻想都市の説明を

（幻想都市）

- ・ 科学が発達した幻想郷と考えて構わない
- ・ 都市に入るにはなにかしら条件がある
- ・ 都市の設備は住人のみ利用可能
- ・ スペルカードはあるが決闘ではなく身を守るための物として渡されている
- ・ まず普通の生物は感知出来ない、神に仕える職に就いたり魔力を持ってたり人ならざる者の血を体内に流してたりしていれば感知できる

こんなものです、ただ郷が都市になっただけだと言う考えで大丈夫ですw
ではまた次回！

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9952y/>

古狼熊狸が行く幻想の学園

2011年11月30日00時50分発行